



TOKUSHIMA PREFECTURAL INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION



2022.01

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

謹賀新年

年頭のご挨拶



公益財団法人徳島県国際交流協会
理事長 黒石 康夫

新年明けましておめでとうございます。
皆様方におかれましては、健やかに新しい年をお迎えになられたことと思います。

昨年は、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた1年でありましたが、その中で開催された「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」は、世界中に大きな感動を与えてくれました。世界の200を超える国・地域から、様々な障がいのある人々も参加する、国際的なスポーツイベントが日本で開催され、世界のアスリートが全力を尽くす姿は、夢と希望、勇気をもたらすとともに、障がいのある方もない方も、お年寄りも若者も、助け合って共に生きる“共生社会”の理念が、多くの人々の記憶に刻まれました。

また、参加する国と地域の住民が、スポーツ、文化、経済などの多様な分野で交流することを通じて、地域のにぎわいや活性化等につながり、東京大会終了後も末永い交流を実現することを目的として、県や市町村においても、ドイツやカンボジア・ネパール・ジョージアの「ホストタウン」・「共生社会ホストタウン」の登録が進み、事前キャンプや交流の実施に、コロナ禍

で多くの規制がありましたが、地域の住民やボランティアの皆さんに御活躍いただきました。

さらに、県下全市町村で実施された聖火リレーにおいては、障がいのある方もない方も、お年寄りも若者も参加して、聖火をつなぐとともに、パラリンピック聖火フェスティバルでは、パラリンピック競技大会の聖火を各市町村で様々な方々に採火していただくなど、“共生社会の実現”に向けた熱意は高まり、大会開催のレガシーとなりました。

さて、県内にお住まいの外国人は、令和3年6月末で、81か国1地域、6,548人で、徳島県民の約110人に1人が外国人ということになります。

国においては、「出入国在留管理庁」が、人手不足に対応するため、外国人労働者の在留資格を緩和する方向で検討をしていることが報道されました。事実上在留期限がなく、家族帯同も認められる在留資格「特定技能2号」について、現在の2業種から拡大する考えで2022年度の決定を目指しているということです。

また、現在、新型コロナウイルスの新たな変異ウイルス「オミクロン株」に対する警戒感が高まり、

各国で水際対策が強化されてはいるものの、技能実習生や留学生は多数待機している状況であり、今後入国制限が緩和されると、県内在住の外国人は、さらに増加することが見込まれます。これに伴って、子育てや教育、医療や労働問題など、今まで以上に様々な課題が増えてきます。これらの外国の方々と違いを認め合いながら、相互に理解し合い、共生する地域社会を築いていくことは、これからますます重要となります。

徳島県国際交流協会では、在留外国人が県民とともに安心して生活するための相談や、訪日外国人観光客などを含めた在県外国人への情報提供及び日本語教室においてコミュニケーションを支援することなどにより、多文化共生の町づくりを進めて参ります。また、「とくしま国際戦略センター」の運営を柱に、県や市町村、民間団体の皆さんと連携し、外国人との共生社

会の実現に向けて、しっかりと取り組んで参ります。

新しい年の徳島は、オリ・パラで培った“共生社会の実現”に向けた熱意をより高め、2025年の「大阪・関西万博」の開催に向け、世界からの人やモノが行き交う国際交流・連携の舞台へと展開していきます。こうした機会を捉え、徳島が外国人の暮らしやすい地域となることはもちろんのこと、徳島の魅力を世界に発信し、多くの方に訪れていただけるよう、力を尽くして参りたいと思います。

結びに、本年が皆様方にとりまして、幸多き年であることを御祈念申し上げますとともに、引き続き、当協会への御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。

防災センター・スタディ・ツアー



令和3年11月28日（日）に「防災センター・スタディ・ツアー」を開催し、5か国8名の方々が参加しました。通常であれば、防災月間である9月に開催予定でしたが、とくしまアラートの発動に伴い、やむなく延期となっております。

このツアーは在住外国人を対象として、徳島県立防災センターで、地震、台風などの災害の疑似体験を通して、災害に対する備えの重要性の認識を高めるとともに、南海トラフ巨大地震をはじめとした防災意識の啓発を目的としています。

今回のツアーでは防災人材育成センターの職員による防災講座を受講し、その次に、防災ガイダンスコーナーで、「津波から命を守る」（英語字幕付き）の映像を見ながら地震から発生をする津波の仕組みや発生時の対処法を学びました。続いて、消火、煙、暴風の体験をしました。参加者の中には、防災講座中にメモを取ったりして、真剣に話を聞く方もいました。

体験終了後に参加者から「日本でもし災害に遭った時に日本語がわからなかったり、災害や避難に関する知識等が不足していたら、自分の命を守ることができないかもしれないので、防災についての意識を高めていきたいです。」という意見をいただきました。

今回のツアーで得た知識を参考にし、いつ起こるかわからない災害に対して備えていただければ幸いです。

防災センターの前で
集合写真



強風体験の様子



消火体験の様子



国際理解支援フォーラム2021 ～多文化共生のまちづくりを推進するために～

長期社会体験研修生
吉本 絹代

去る12月5日（日）に国際理解支援フォーラム2021「～多文化共生のまちづくりを推進するために～」を、講師にNPO法人国際活動市民中心（CINGA）コーディネーター、新居みどりさんをお迎えし、オンラインにて開催いたしました。

新居さんのお話から、今の日本が抱える外国人の問題は、外国人相談事業を作るだけで解決することはなく、外国人相談を外国人相談事業につなぐ地域の人々のサポートが不可欠であることが分かりました。

現在日本には、在住外国人が282万3,565人（法務省2021年6月末現在）在住しており、様々な在留資格を持つ人が、農林水産業、製造業、介護などの人材不足の分野で活躍しています。このような状況の中、多文化行政支援は大事な課題になっています。

徳島県はこの30年で在留外国人が6倍に増加しており、年齢別に見ると、15歳から39歳の若い層が多く、高齢者は少ない状況です。徳島県は、約110人に1人が外国人という割合になっており、この比率が10%を超えると社会的課題になりやすいと言われています。現在日本は2.2%（新宿区は12%）で、日本の現状を考えると、4%を超えると問題が起こりやすいと考えられています。

外国人という言葉には定義があり、「外国人とは日本国籍を有しない者」を言います。また、外国人住民とは市町村の区域内に住所を有する者をいい、市長が「市民の皆さん！」と呼びかけると、その中には外国人も当然ながら含まれています。つまり行政サービスを提供することになるのです。新居さんが所属されています、NPO法人国際活動市民中心（通称：CINGA）は東京都の受託事業として、東京都外国人新型コロナ生活相談センター（通称：TOCOS）を令和3年3月31日まで開設をし、外国人のコロナに関する相談を、本来なら保健所や労働相談センターが対応する内容を、TOCOSで担っておられました。

14か国語で対応されていたそうですが、いちばん使われた言語は「やさしい日本語」だそうです。

外国人の困ったには、①法律の壁 ②言葉の壁 ③心の壁の3つの壁があり、①は在留資格による制限の問題 ②は日常会話はできても読み書きができないなどの問題、③は差別やストレスの問題です。

このような、外国人相談を外国人相談事業につなぐ大事な役目は、地域の日本語教室が担っています。地域日本語教室は情報交換・異文化理解・問題解決（学校のお便りの解説や、ワクチン接種の手続きなど）の重要な場となっているのです。

日本語の理解できない親の通訳を担う子供たちもヤングケアラーに含まれます。教育現場では、外国人差別などがおきないように、先生達の研修も大事です。学校は、外国人を地域の人々につなぐ、最初の重要な役割を担っているという意識を持つべきなのです。

新居さんのお話から、外国人の問題を解決するには、この領域に関心のある人だけで取り組んでいても、これ以上の発展はなく、もっともっと多くの一般市民に知ってもらわないといけないというお言葉が心に強く残りました。

フォーラムを通して、参加された皆様が、ともに多様性を認め合いながら生活できる地域や社会について考えるきっかけになったのではないのでしょうか。当協会はこれからも、皆様と共に多文化共生のまちづくりを推進するために考える機会をつくっていききたいと思います。



オンラインで講演中の
新居 みどり氏



大規模災害時外国人対応想定訓練を実施しました!

地域外国人コーディネーター

小林 功

(公財)徳島県国際交流協会では、徳島県ダイバーシティ推進課との共催で、11月18日(木)、Web会議システム(Zoom)により、大規模災害時外国人支援訓練を実施しました。当日は、外国人支援機関・団体等、約50人が参加しました。

前半は、(一財)熊本市国際交流振興事業団の八木浩光事務局長による講演、後半は、八木氏のご指導によりワークを実施しました。

「災害時の外国人支援と平時の災害に強い多文化共生の地域づくり～平成28年の熊本地震と令和2年の豪雨災害の教訓～」と題した講演では、「災害時に外国人が抱える課題」、「外国人被災者支援活動の状況」、「災害に強い多文化共生社会づくり」について、熊本地震と豪雨災害という、二つの大災害の際に、実際に外国人の支援に携わった経験をもとに、お話しいただきました。

その一部を以下に紹介します。

- 命や安全に係る情報は、全ての人が理解し、安心して安全な行動ができるように伝えなければならない。
- 外国人被災者が安全に安心して生活ができるように、平時における信頼関係づくりが大切である。
- 熊本地震の教訓については、
 - ・ いかに備えをしておくかが非常に重要。(例えば飲料水と食料など)
 - ・ 近隣の人(まさかの時に助けとなる人)との普段からの関係づくりが大事である。
 - ・ 命に関わる情報を、いかに外国人に伝えられるか。
 - ・ 外国人といっても弱い立場の人ばかりでなく、他の被災者を支援する立場になれる人もいる。

続いてワークでは、地域の外国人の状況やニーズの分析を基に、「災害に強い多文化共生の地域づくり」について参加者に考えていただきました。また、私たちが日常使っている日本語でも、外国人にとっては理解が難しい言葉のやさしい日本語への書き換えについて考えていただいた他、以下のようなお話しがありました。

災害時のやさしい英語について、

- ・ 「やさしい英語」という意識が必要。
- ・ 英語(外国語)と日本語の併記が大事。(それによって理解できる場合がある。)
- ・ 発信側と翻訳側、コーディネーター側が、外国人のこと、お互いのことを考えることが重要である。これは、自治体、協会等の支援団体、ボランティア、外国人、全てに言えることである。(関係づくりの重要性。)

災害時の翻訳作業について、

- ・ 全てを翻訳する必要はない。(行政文書のような完全翻訳ではない。)
- ・ 生命に関わる重大な情報を言語、文化、慣習が異なり、災害知識がない人に伝えるという意識を持つことが必要。
- ・ 英語については、英語が母語でない人たちに、英語で伝えるということを意識する必要がある。

○まとめ

- ・ 外国人住民の方達は、言葉や習慣の違いもあり、立場が弱い。そんな中で、日本人と外国人住民が支え合えるような企画を考え、多文化共生の社会を作っていく。
- ・ ある地域では、自主防災会と外国人との防災ワークショップを行っている例がある。地域の日本人にも広めていく中で、地域づくりを行っている。こうした取り組みにより、何かがあったときに外国人も支援者、担い手として育ち、地域住民となり、多文化パワーが発揮されていく。
- ・ 外国人との多文化共生から始まった取り組みが、さらに他の日本の地域にも広がっていくようになるかもしれない。
- ・ 担い手とつなぎ手、中でもつなぎ手が非常に大事である。外国人と地域の人をつなぐ。外国人を地域の住民として受け入れ、全体としてつなぐ。

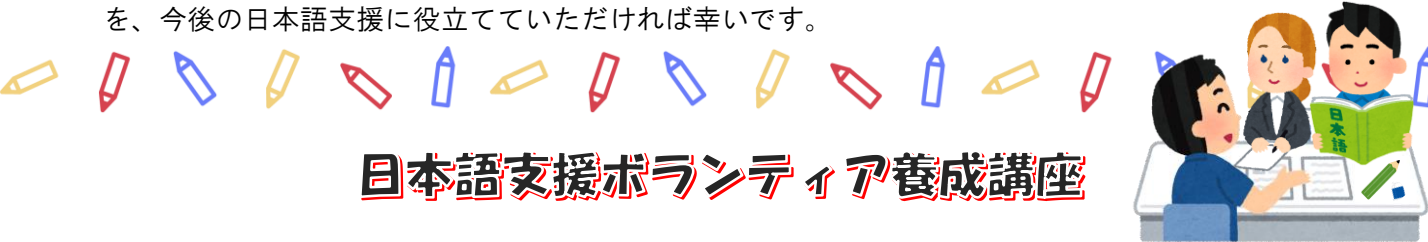
本日の参加の皆さんに、その役割を担っていただければと思います。

日本語支援ボランティアスキルアップ講座

令和3年7月から9月にかけて、Web会議システム（Zoom）で日本語支援ボランティアスキルアップ講座を合計3回開催しました。今回は、すでに日本語支援活動をされている方が対象者の講座で、16名の方が受講してくださいました。講座内容は、現在のコロナ禍で、対面での日本語支援が難しい中、オンラインツールを活用しながら支援をするという内容でした。まずは、受講者が、Zoomのホスト（主催者）になるための練習をしました。受講者の多くはZoom開催の講座などに参加され方が多かったのですが、ホストとなったことがある方は数名のみでした。

1回目の講座では、ホストとしての基本的なZoomの使い方を研修した後、参加者を少人数のグループに分けてミーティングを行えるブレイクアウトルームで日本語支援の際に便利なオンラインツールを使う練習等を行いました。そして、受講者同士でペアを組み、事前にホストになる練習をし、2回目の講座では、四国大学の留学生にご協力をいただき、受講者たちがホストとして、日本語支援をしていただきました。2回目の後半と3回目の講座では、オンラインで学習者と楽しく勉強やおしゃべりができるようにするための、様々な支援方法やツールについて研修しました。

多くの受講者がホストとなり、日本語支援をするのに不安を抱いていましたが、講座修了後には、「実践的な講習で、とても役に立ちました。新しい技術を身につけるのは容易ではありませんが、慣れるまで頑張りたいです。」という感想をいただきました。今回の講座で学んでいただいたことを、今後の日本語支援に役立てていただければ幸いです。



日本語支援ボランティア養成講座

令和3年11月13日から令和4年2月にかけて日本語支援ボランティア養成講座（合計9回）をWeb会議システム（Zoom）にて開催中です。日本語支援に興味があり、これから支援ボランティアとして活動を希望されている方等が対象で、現在36人の方が講座の受講真っ最中です。

1回目の講座では、TOPIAスタッフによる「徳島県に住む外国人の現状や課題や、多文化共生社会に向けて私たちができること」について、そして、四国大学准教授の元木先生から、「多文化共生社会の中での日本語支援の必要性やあり方」について、最後に、吉野川市国際交流協会の萩森会長からは「地域の日本語教室の役割や支援ボランティアの心得」などについて実践に基づいたお話を伺いました。

その後、TOPIA日本語講師の青木先生から、4回にわたり、長音や拗音、促音などの日本語の特徴から始まり、名詞、形容詞、動詞を教えるときの要点についての講義がありました。後期では、同じくTOPIA日本語講師の山田先生に担当していただきます。そして、吉野川市国際交流協会（略称：YIA）にご協力いただき、YIAの日本語教室にて、今回の講座受講者を対象に対面での実地研修を予定しております。実地研修では、実際に地域日本語教室の雰囲気味わっていただき、日本語支援の魅力や楽しさを実感していただければと思います。

日本では、在住外国人が今後ますます増加していくことが予想されていますが、その中でも日本語支援は彼らが日本で円滑に生活していく上で非常に大切です。そして、地域の日本語教室は、言葉の支援だけではなく、彼らの心のよりどころにもなり得るためとても重要な場所です。今回の日本語支援ボランティアスキルアップ講座及び、養成講座の受講者が、地域で日本語支援のみならず、彼らの良き理解者となり多文化共生社会の推進の手伝いをしてくださることに期待をしています。



～県内国際交流団体活動紹介～

「阿波市国際交流の会」の活動紹介



阿波市国際交流の会
会長 松村 幸江

阿波市は徳島県北部中東寄りに位置し、北の讃岐山脈から肥沃な扇状地が広がり、南には四国三郎の異名を持つ吉野川が滔々と流れ、生産量県下一といわれる多様な農産物が育ち、自然良し・人良しで大変住みよい地域です。

2005年4月1日に4町（吉野、土成、市場、阿波町）が合併し市政が発足しました。

「阿波市国際交流の会」は、2013年6月に発足。在住外国人の災害時に役立つ情報を発信しようと、「外国住民から見た防災対策意見交換会」を第1回目に開催しました。その折には、中国、カンボジア、フィリピン、インドネシアの実習生の皆さま、国際協力に関心のある皆さま、防災士の方々、消防署・市役所と多くの方々の応援・ご協力をいただき成功裏に終えることができました。

その後、市在住外国人の方々を招き「サバイバルCOOKING」開催。引き続き、外国人の方々の応援を得て「Under the skyー同じ空の下でー災害時に役立つサバイバルカード」作りを行いました。カードは、中国語・英語・日本語で書かれ市の関係機関に設置、市内のイベントで広く配布されました。

また、江戸時代阿波藩主蜂須賀公への農民のおもてなしから始まったという市場町の伝統行

事「やねこじき」へ出展。各国の民族衣装（中国、ネパール、インドネシア、チリ、ジンバブエ等）や民芸品（世界のお面）、地元の戦争の歴史等を展示紹介し、観覧者へ世界平和を呼びかけました。

ここ数年は、「TOKYO2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催に伴い、「世界を知ろう！」をテーマに、多様な出身国の在住外国人、海外在住経験者や留学生を講師に迎え、市民の皆様へお国柄を紹介し、あわせてお国自慢の料理教室を開催しております。これまでに、カナダ、英国、米国、ベトナム、南アフリカ、ケニア、チリ、インドネシア、ガーナに関してのイベントを開催いたしました。講師の方は本国から食材を仕入れて下さる方もいてとても協力的です。参加者の年齢層は広く、子どもから高齢者の皆さまが質問し、料理から会食まで和気あいあいと動かれている様子は、まさに世界平和の縮図のようです。

ここ2年はコロナ禍で参加人数が半数になっておりますが、昨年12月11日には一昨年に引き続き「初めての英会話②」を開催いたしました。

今後も市民の皆さまの国際交流のお役に立てるよう会員一同努力してまいります所存です。

Awa International Association 阿波市国際交流の会

Under the same sky
ー同じ空の下でー

災害時に役立つサバイバルカード作り①

制作災害伝言板

Awa shi bouei muen hoso
阿波市防災無線放送
Public Disaster Announcements
阿波市政府通知

★ Awa shiyakusho yori oshirase shimasu
阿波市役所よりお知らせします。
Taifu 〇〇go no sekkin ni tomonai honjitsu gogo 〇〇時〇〇分より Awa shi saiga
台風〇〇号の接近に伴い、本日午後〇〇時〇〇分に、阿波市災害
伝言板 honbu wo soshite oshirashite
対策本部を設置しました。
kongo oame bufu no osome ga arimasu node jubun ni gotyui kudesai
今後、大雨、暴風の恐れがありますので十分にご注意ください。

Awa city informs citizens that the local government set up the provision head office due
to Typhoon 〇〇th at 〇〇p.m.
Be aware that there will be heavy rain and storms in the future.
台風〇〇号台風の接近、今天下午〇〇時〇〇分、阿波市政府設置了災害対策本部
今後、大雨、暴風の恐れ、留意十分注意

★ Ikeda damu horyu ni kansuru joho ni tsuite oshirashimasu
池田ダム放流に関する情報についてお知らせします。
Senrijo motoru wa komashita kansen no suijogyo ni goryui kudesai
1,000c/sを越え、放流、河川水位上昇、警戒が厳し。

Awa city informs citizens about the bursting of Ikeda Dam.
The water level has overflowed by 1000 cubic meters per second.
Pay attention to the rising river level.
关于池田水門开放消息、约通知
河川水位上升已超1000立方、留意

★ honjitsu gogo 〇〇時〇〇分より onojima sensuiko ga zannen tsukodomae tonarimashita
本日、午後〇〇時〇〇分より、大野島橋水防が、全面通行止めとなります。
The Onojima low water bridge was completely closed to traffic from 〇〇p.m. today.
今天、从下午〇〇時〇〇分开始、大野島水防、禁止通行

※ いざという時に役に立てる活用できる言語カード作りは、防災訓練や成年講習にて行います。

URL: <https://www.facebook.com/AwaShiAwaCityExchange/>
問い合わせ先：阿波市国際交流委員会 松村まで 089-322-1400

サバイバルカード



防災対策意見交換会



サバイバルCooking



世界を知ろう
(ベトナム編)



初めての英会話

JICA徳島デスクのページ

JICA（独立行政法人 国際協力機構）は、日本のODA（政府開発援助）の実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。「信頼で世界をつなぐ(Leading the world with trust)」というビジョンを掲げ、多様な援助手法を組み合わせ、最適な解決策を提供することで、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

■JICA四国国際協力出前講座

出前講座とは、国際協力機構の各種ボランティア経験を持つOBや技術協力専門家などを学校や地域に紹介し、講演やワークショップを行ない、開発途上国や国際協力について知っていただくプログラムです。

国際化時代を迎え、学校の授業の一環として海外の生の状況を知ることは国際理解を深める上で非常に有効です。学校での「総合学習の時間」や、地域での国際理解講座などに積極的にご活用ください。

●問い合わせ先・申込先●

公益社団法人 セカンドハンド（国際協力出前講座受託団体）

〒760-0055 香川県高松市観光通1丁目1-18

電話・FAX 087-861-9928 担当：林

《対象》

- ・学校の総合学習の中で
- ・地方自治体でのボランティア養成講座で
- ・講演会や研修会での講義で

《内容》

- ・現地での活動・困ったことや嬉しかったこと
- ・なぜJICAボランティアに参加したのか
- ・参加する前と後での変化は
- ・自分たちにできる国際協力とは等々



■JICAの支援メニュー紹介：JICAでは、日本の地域で発展してきた技術や経験を開発途上国の発展にも活用し、国際協力を通じて地域の活性化や国際化にも貢献していきます。

◆JICA海外協力隊事業

開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考・訓練を経て派遣します。帰国後もグローバル人材としての活躍が期待されています。

【募集期間】年2回（春・秋）を予定しております。

現在オンラインで説明会や座談会を開催しています。ご関心のある方はぜひご参加ください。

募集に関する詳細は、JICA海外協力隊報ホームページをご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>

◆草の根技術協力事業

技術協力を通じて途上国の方々の生活改善を支援しています。

【事業提案の応募は、以下の3コース】

○草の根協力支援型（3年以内、1,000万円以内）

○草の根パートナー型（3年以内、1億円以内）

○地域活性化型（3年以内、6,000万円以内）

◆研修員受入事業

開発途上国からの研修員が四国の知識、経験を学んでいます。大学・地方自治体・民間団体などの協力を得て、四国の特性を活かした四国ならではの研修を実施しています。

◆開発教育支援事業

地域や学校の皆さんと世界を学びます。

・教員向けJICA地球ひろば「先生のお役立ちサイト」学習指導案・写真・映像・パンフレットデータ・教材

・教師海外研修

・教員のJICA海外協力隊への現職参加

・協力隊経験者による出前講座

※詳細は、JICA四国HPをご覧ください。

◆中小企業・SDGsビジネス支援事業

四国の技術、世界へ！四国の民間企業と途上国を結びます。

○基礎調査（850万円または980万円上限）

○案件化調査（3,000万円または5,000万円上限）

○普及・実証・ビジネス化事業（1億円、1.5億円または2億円上限）

○「JICA海外協力隊（民間連携）」を通じたグローバル人材の育成

JICA徳島デスクでは、いつでも皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。

デスク：徳島県国際交流協会（TOPIA）内、徳島県国際協力推進員：森

TEL：088-656-3303 Email：jicadpd-desk-tokushimaken@jica.go.jp

JICA四国HP：<https://www.jica.go.jp/shikoku/index.html>

※（注）派遣国の政治・治安情勢や感染症を含む自然災害の状況により、事業実施を見合わせる場合があります。

「とくしま外国人支援ボランティア会員」

＊募 集 中＊

徳島には約80か国、約6,600人の外国人の方が住んでおり、2019年4月からの「外国人材の受け入れ拡大」などにより、今後ますますその数は増えていくことが予想されます。彼らが、この徳島で国籍などに関係なく生き生きと生活することができるよう、ボランティアになって支援していただきながら一緒に国際理解や多文化共生を推進していきませんか？

詳しくはとくしま国際戦略センターホームページの「ボランティア募集」をご覧ください。

URL <https://volunteer.topia.ne.jp/recruit/page01.html>

TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報を優先して受けることができ、賛助団体は会議室の予約を3か月前から申し込むことができます。詳細は当協会まで。資料をお送り致します。

年会費 個人会員 一口 3,000円/年度
 団体会員 一口 10,000円/年度

国際理解教育を応援します

国際理解支援講師派遣

人とふれあい 人とつながり

多文化理解&多文化共生！

徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的として当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流活動などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。リモート講義についても御相談ください。

国際理解支援講師募集中

～母国と日本の交流の架け橋となりませんか～

県内の学校や市町村の機関が行う国際交流のイベント等で、国際理解支援講師として日本語で母国の文化紹介などをしてくださる県内在住外国人の方を募集しています。

徳島県外国人総合相談窓口



徳島県で生活する外国人のみなさんが、暮らしやすい地域社会を目指し、外国人総合相談窓口を開設しています。当協会では英語、中国語、そしてベトナム語のほか、たくさんの言語で対応ができますので、仕事、医療、子育てなど生活でお困りのことがございましたら、当協会に来所いただくか、お電話いただければ対応させていただきます。

開 所 時 間：10：00～18：00（年末年始を除く）

場 所：とくしま国際戦略センター

（公益財団法人徳島県国際交流協会）

多言語対応：

（1）多言語（英語・中国語・ベトナム語）相談員の配置

（2）電話通訳システムの導入

（通訳事業者、行政機関も交えて4者間で相談できる）

【対応言語】19言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤インドネシア語 ⑥タイ語 ⑦マレー語
- ⑧タガログ語 ⑨ネパール語 ⑩ミャンマー語
- ⑪クメール語 ⑫モンゴル語 ⑬ポルトガル語
- ⑭スペイン語 ⑮フランス語 ⑯ドイツ語
- ⑰イタリア語 ⑱ロシア語 ⑲シンハラ語

（3）映像通訳システムの導入

（相談者・相談員と通訳者との対面相談に対応）

【対応言語】8言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤タイ語 ⑥ポルトガル語 ⑦スペイン語
- ⑧ロシア語

（4）対面式通訳機（ポケットーク）の導入（74か国語）

（5）多言語翻訳アプリ（ボイストラ）の導入

相談専用TEL：088-656-3312、088-656-3313

相 談 料：無料

（ただし、電話代は自己負担となります）

問い合わせ：公益財団法人徳島県国際交流協会
〒770-0831

徳島市寺島本町西1-61

クレメントプラザ6F

開所時間：月曜日～日曜日 10：00～18：00

閉所日：12月29日～1月3日

TEL: 088-656-3303 FAX: 088-652-0616

URL: <http://www.topia.ne.jp>